理事長所信　２０２２－２０２７

はじめに

平成末期から令和にかけて、日本の教育制度は多くの改革が行われてきました。平成２４年、幼稚園と保育所の機能を併せ持つといわれる「認定こども園」の新制度が成立しました。平成２８年、小中一貫校の制度が成立しました。平成２９年、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関として、専門職大学、専門職短期大学を設置する制度が成立しました。令和２年、私立学校法が改正され、学校運営の一部変更並びに長期計画の策定と情報公開の義務付けが行われました。令和３年度可決、令和４年度施行の改正国立大学法人法には学長選考の権限強化や国立大学法人の統合などが盛り込まれ、その流れは私立学校法にも波及する可能性があります。さらに、高大接続とよばれる高等学校と大学の教育のあり方全体を見直す一環として、センター試験が大学入学共通テストとなりましたが、テスト内容も含め、高大における教育内容の見直しは、今なお進行中です。

また、関連して教育に対する環境の見直しも進んでおり、令和元年より大学等への修学支援制度が始まり、所得と学習意欲によって学費や生活費が支給されるようになりました。同年幼児教育無償化が始まり、所得によって保育料等が免除されるようになりました。高等学校就学支援についても令和３年度から拡充されました。

このように、ここ１０年で教育制度は全教育課程を通じて大きく変動しようとしています。今後はこれらの制度改革にあっても生き残り、かつ地域社会に貢献できるような、魅力ある学校法人へと進化していかなくてはなりません。我々は、この情勢を前向きにとらえつつも、自らの役割を確固たるものとして発信し、本学園の建学の精神「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」の具現化を目指してまいります。

多様化した社会の中で輝く個性の育成

近年学校制度改革が多く行われてきた根底にあるのは、社会のグローバル化・多様化・複雑化が進み、教育制度にもそれらを反映しなければならなくなってきた背景があるからと考えられます。しかしながら、前述した国立大学の統合などにおいては、むしろひとつの大学に多様な学部、多様な科目を整備するという方針が、個々の学問においては画一化を進めるかのような制度になってしまうおそれがあります。本来であれば、取得できる学位や資格が同一のものであっても、卒業した学校によって異なる個性が磨かれ、異なる付加価値を持つ人材が輩出され、それら輝く人材たちが共存する社会であってこそ、真の多様化が受け入れられた社会というべきではないでしょうか。本学園においては、多様性を認めそれを受け入れながらも、各校の独自性を発揮し、常に各校の教育理念や教育目的を確認しながら、それぞれの教育課程を構築し、輝く個性を持った人材を育成していくことを目指します。

質保証の先にある存在感をもった高等教育機関へ

大学・短期大学にあっては、認証評価をはじめとする外部からの評価が求められ、それに対応し続けてきました。しかしこれらは、あくまで全ての高等教育機関に求められているものであり、真に多様化社会に対応し、地域社会に貢献できるようにするためには、その先を見据えた付加価値を確立し、内外に示していかなくてはなりません。志學館大学・鹿児島女子短期大学においては、既に質保証の観点から、学位授与の方針あるいは学習成果といったものが可視化され、またそれらを検証する体制も整えられています。ですが、今後はこれらが教育面においても運営面においても、社会的評価に連動したものとなるようさらに整備し、存在感を示してまいります。

また、当面は海外への出入りは制限される期間が続くことが予想されますが、一方で学問にせよ技術にせよ、これまでと異なる形ではあっても、グローバル化は進んでいくことは間違いありません。新たな世界情勢においても戸惑うことなく順応できる人材を育成していくために必要な、人的・物的資源の確保に努めてまいります。

新たな時代における地方中高一貫教育の確立

高等学校教育においては、平成３１年度の中央教育審議会諮問の「新しい初等中等教育の在り方について」の答申において、スクール・ミッションやポリシーの再定義等、大学の政策に似た流れの提言が行われ、また普通科教育の改革についても取りざたされています。また、就学支援制度の導入は、生徒たちの進学選択の幅を広げることとなりました。これらの変化は、既存の地方中高一貫教育の在り方にも影響を及ぼすと考えられます。多様な学習形態が提示される社会において、あらためて地方中高一貫教育の存在意義を見直し、その魅力を発信していかなくてはなりません。こういった現状とニーズを把握し、現代社会において、教育理念にある確かな学力、豊かな人間性、たくましい行動力を身につけた心身ともに健やかな人間の育成とはどうあるべきか、常に検証していかなくてはなりません。志学館高等部・中等部においては、組織形態自体は変わることがなくとも、教育課程については常に最新の情報を把握し、反映してまいります。

保育と人材確保を両立できる環境の整備

認定こども園制度が浸透した現在、多くの幼稚園・保育園は人材不足の問題を抱えています。制度上多くの人材が必要とされる一方で、少子高齢化に伴って幼稚園教諭・保育士のなり手が減少しているのが現状です。鹿児島女子短期大学附属かもめ幼稚園・なでしこ幼稚園・すみれ幼稚園、また学園の付帯事業であるなでしこ保育園においても、保育内容の充実と、人材確保の両立を果たさなければなりません。本学園の幼稚園・保育園は、園児の個性を伸ばし、豊かな心を育て、社会性を身につけさせる保育を行ってきました。今後は鹿児島女子短期大学とも連携しながら、現代社会における保育の在り方を模索するとともに、それを担える継続した教職員の資質向上も図ってまいります。

社会情勢に合わせた施設設備の充実

令和２年以降、社会を取り巻く環境は大きな変化をもたらしました。都市部の学校においては、一部リモート授業の定着も図られる一方で、これまで推進されてきたアクティブラーニングをはじめ、対面・少人数を前提として検討されてきたさまざまな手法について、転換を余儀なくされています。施設設備計画については、過去３回の中長期計画策定においては別立てとし、各設置校と長期的な予算のもとに策定してまいりましたが、今後は ICT の充実など、ハード面のみならずソフト面においてもさまざまな配慮が必要となります。２０２２年度からのは、長期計画に施設設備計画も組み込むとともに、単に施設の建設や修繕のみならず、新たな社会情勢に合わせた教育の充実のためにはどのようなものが必要であるかを検証し、計画に組み込んでまいります。

むすびに

学園の建学の精神は、平成１１年までは「時代に即応した実際に役立つ婦人の育成」でした。これは明治から大正時代の女学校の在り方として良妻賢母の育成が求められる時代にあって、それに合致させつつも女子に必要な実業教育、職業的な知能の啓発といった特色を加えたものだといわれており、創設者満田ユイ先生、そして後継者である志賀フヂ先生の思いが感じられるものです。男女共学化にあたって「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」に変更されましたが、この時も当時の理事長志賀達一先生をはじめとする多くの方々との協議を経て、その時代に必要な人間像の在り方と、学園の伝統を短い言葉に詰め込んだといえます。また、満田先生のみおしえ「雪の如く清らかに月の如く明らけく花の如く撫子の強く優しく」は、時代の変遷とともに、その女性的な文体表現にかかわらず、人間としての在り方、人の美しい生き方を表すものとして学園に継承されています。このように、我々が掲げる理念や方針は、ただ言葉として設定するだけではなく、それを具現化するために何をすればいいのか、その時代その時代の関係者たちが考え、理解し、実践してこそ初めて意味を持つものとなります。この激動の時代において、これらの言葉が陳腐なものとならないよう、関係者一人ひとりがこの言葉を自分なりに解釈し、行動に移していくことこそが、学園全体の発展につながるのではないでしょうか。この多様な価値観が混在する社会においても個性輝く人材を育成し、社会に貢献できるような特色ある学園となれるよう、一丸となって取り組んでまいります。